

各分野（公園、住宅地、振興・都市拠点）における「若手の会」の考え

①公園

確認事項①：何を公園のメインテーマとして整備すべきか？



●若手の会の考え：「平和」をメインテーマとした公園とする

【公園づくりのメインテーマ】

平和

【サブテーマ】

平和の要素を取り入れる

自然・歴史・文化

スポーツ・レジャー

シンボル

⇒基地という資源（普天間飛行場そのもの）を利用した「平和」をメインテーマとし、ポジティブなイメージで、飛行場があったという事実を伝え、平和学習をしてもらう「普天間返還記念公園」として位置付け、宜野湾市を平和の発信地にする。

確認事項②：公園に必要な規模はどれぐらいか？



●若手の会の考え：（仮）普天間公園については、100ha以上の大規模公園とする

⇒下記のような役割や、沖縄県広域緑地計画の目標としてある「将来市街地面積の30%以上にあたる緑地を確保する」ことを踏まえると、魅力的な公園をつくる上で必然的に100ha程度は必要になる。整備にあたっては、継続的に管理していくために国営公園としていく必要がある。

（役割）

- ・普天間飛行場の跡地だけでなく、宜野湾市全体で見たとときのシンボルとしていく必要がある。
- ・中南部をカバーする広域的な防災拠点としての役割がある。
- ・面的に広がっている水盆や大きな基地内の緑を守る必要がある。
- ・那覇市や北谷町などに素通りされてしまっている状況であるため、（仮）普天間公園を宜野湾市にアクセスさせるための目玉としていく必要がある。

確認事項③：望ましい公園の配置はどんなものか？



●若手の会の考え：2つの案（集約型配置、ネットワーク型配置）が出ている。

⇒「集約型」でまとまりのある公園を配置する。

（意見）

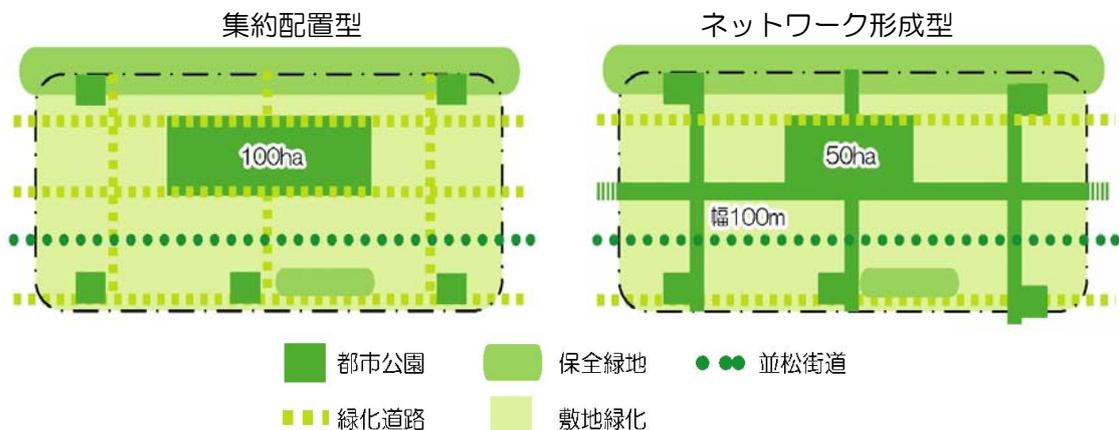
- ・ネットワーク型だと、一つ一つの公園が今までの大きさと変わらない。
- ・集約型配置であれば、人を呼ぶためにイベント等が開催しやすく、周辺にも波及効果が見込め、管理もしやすい。
- ・跡地全体を考えるのであれば、ネットワーク型にして、緑を増やすのが良いが、国営公園を考えると50haでは足りない（下図参照）。

⇒「ネットワーク型」で帯状に公園を配置する。

（意見）

- ・中央に50haぐらいの公園、そして周辺の新城・神山・伊佐・大山などの既存の多い緑を活かした公園がネットワークで繋がっているような形のものが良い。
- ・波及効果という意味では、ネットワーク型配置が良い（ネットワーク型にすることで、街区公園までに波及効果が出る）
- ・振興拠点への影響を考えると、ネットワーク型で西部ゾーンに配置した方が、跡地の価値が上がる。
- ・中南部をカバーする防災公園という意味合いもあるため、ネットワーク型で分散させた方が良い。
- ・まちにおける公園の形成としては、ネットワーク型が良い。
- ・幹線道路沿いに帯状の公園があるのは魅力的である。

≪緑地空間配置パターン（模式図）≫



普天間飛行場跡地利用計画方針策定調査報告書（H22年）より

②住宅地

確認事項①：跡地内に必要な住宅の形態は何か？



●若手の会の考え：多様な住宅形態を提供する

【「地権者」のための住宅地】

- ゆとりのある戸建住宅（ナ－のある戸建住宅、家庭菜園が楽しめるゆとりある区画）
- 地域資源を守り、新たに創造する住宅地（旧集落のシンボル空間を活かした住宅、フクギ・琉球石灰岩等を取り入れた住宅）

【「来住者（市民・県民）」のための住宅地】

- 利便性を活かした都市住宅（在宅勤務用住宅など）
- 農作業が楽しめる市民農園のある住宅地

【「来住者（県外）」のための住宅地】

- ゆとりのある戸建住宅地（眺望の良い丘陵地を活かした住宅地、家庭菜園が楽しめるゆとりある区画）
- 沖縄で健康回復を目指す人のための短期的な定住、反復的な滞在ができる住宅

【「地権者」「来住者」に共通した住宅地】

- 安心・安全な住宅地（歩行者や自転車交通を優先した住宅地など）
- 環境に配慮した、自然を感じる住宅地（自然を感じられる住宅、エコ住宅など）
- 地域のコミュニティを重視した住宅地（交流空間、コミュニティ施設のある住宅地）

（詳細内容）

※場所が特定されていない提案

⇒ゆとりある住宅地としていくために、垣根がなく、一つ一つの住宅がゆったりしている住宅地や「ナ－（庭）」のある戸建住宅地などを整備する。

⇒家庭菜園等が楽しめる市民農園のある住宅地を整備する。

⇒沖縄での新たな生活に応える住宅地としていくために、沖縄で健康回復を目指す人のための短期的な定住、反復的な滞在ができる住宅地を整備する。

⇒環境共生に向けては、緑や水等の自然を感じられる住宅や太陽光を利用したエコ住宅など、観光に配慮した自然を感じられる住宅地を整備する。

⇒地域のコミュニティを重視した住宅地としていくために、子供から高齢者まで、幅広い世代が集う交流空間のある住宅地や多様な地域活動を支えるコミュニティ施設のある住宅地を整備する。

⇒街中で暮らす便利さと優れた環境を提供するために、就業者のためのテレワーク用住宅（在宅勤務用住宅）を供給する。

※場所が特定されている提案

⇒ゆとりある住宅地としていくために、基地内に残る旧集落のシンボル空間を活かした住宅地を整備する。また、赤瓦、フクギ、琉球石灰岩を取り入れた住宅など地域資源を守り、創造する住宅地を整備する。

⇒沖縄での新たな生活に相應る住宅地としていくために、跡地の西部にあるオーシャンビューを望める丘陵端部に、ゆとりある住宅地を整備する。

③振興拠点・都市拠点

確認事項①：振興拠点・都市拠点と大規模公園を一体的に整備すると良いと思うか？



●若手の会の考え：大規模公園との一体化を図り、魅力を高める。

⇒緑が豊かな都会のオアシスとなる場として、中南部をカバーする規模の防災機能のある大規模公園をつくる。

確認事項②：振興拠点・都市拠点の中に住宅を整備する必要があるか？



●若手の会の考え：街中で暮らす便利さを提供するため、拠点の中及び周辺に住宅地を整備する。

⇒街中で暮らす便利さと優れた環境の提供するために、住宅地との高いアクセス性の確保と徒歩圏の拠点づくりを実現し、観光客も楽しめる公共交通を走らせる。

⇒都市拠点においては、街中で暮らす便利さと優れた環境を活かした都心住宅として、多機能複合型などの高層住宅を整備する。

（振興拠点に関する意見）

- ・振興拠点については、眺望の良い振興拠点の前に低層の住宅区を配置するのも良いかもしれない。その間には公園や道路、ワンクッションあれば違和感もなく、高級感もあり付加価値が付くのではないかと。

確認事項③：望ましい「都市拠点の役割・あり方」とは何か？



●若手の会の考え：市民の交流の場や市外から人が集まる拠点として整備する。

⇒市民が集まる交流の場として、警察、消防、医療（大学病院、総合病院等）機能や高齢者にも配慮して公的施設を集積させる（市民センターゾーン）。

⇒県内の他の拠点にはない魅力を持った、人が集まり新しい観光地ともなる場として、全体がテーマパークのようなショッピングエリアやエンターテインメントエリア、西海岸のスポーツ施設や市内の文化施設を複合化させた文化施設エリアなどが一体となる場を整備する（複合的な広域拠点ゾーン）。